

.....	谷中 誠	103
投稿規定.....		138
編集後記.....		140

《本号の表紙絵》

『救民妙薬』

『救民妙薬』は、元禄6年（1693年）に水戸徳川藩第二代藩主徳川光圀が、藩医鈴木宗興（穂積甫庵）に命じて、民家日用の医療に供しうる処方等を採録・記述させ、刊行させた家庭養生書である。刊行は水戸徳川家累代の大業となった『大日本史』の編纂を担った「彰考館」である。『救民妙薬』の対象となった疾病や外傷、不調の項目は130項目、収録された処方方は397にのぼる。俗語をもって記し、収録された処方方も入手の難しい薬種は極力用いず、卑近に存在する諸物を用いた治方を紹介して、あくまでも日用に徹している。同書は文化3年（1806）年には、『増補救民妙薬集』として刊行され、以後多くの版を重ね、明治・大正の頃まで活字本としても刊行を重ねた。

（瀧澤 利行）